

県北地方における地産地消の取組状況

市町村名	具体的な実施内容
福島市	<p>学校給食への地元農産物の活用</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地元産野菜の使用(たまねぎ・じゃがいも・にら) ・米飯給食に地元産米(こしひかり)を使用 <p>農村マニユファクチャー事業</p> <ul style="list-style-type: none"> ・四季の里内にある農産加工館において、地元で採れたブルーベリー、りんご、ラ・フランス、ももなどを使い、手づくりジャム、ジュース、アイスクリームの開発及び販売(事業補助金1,200千円) <p>公共事業における間伐材等の活用</p> <ul style="list-style-type: none"> ・法面工に丸太棚工及び階段工における間伐材使用 ・工事看板の枠組みに間伐材使用 <p>県産材を活用した工事名表示板設置</p> <ul style="list-style-type: none"> ・4基 20千円 <p>県産材を活用した木チップ舗装</p> <ul style="list-style-type: none"> ・300m² 1,035千円 <p>学校給食センターで使用する野菜のうち、一部を地元JAと生産供給体制を確立し使用</p> <ul style="list-style-type: none"> ・キュウリ 3.873kg 1,219千円 ・ニラ 723kg 319千円
二本松市	<p>地元で収穫された米を学校給食に取り入れている</p>
桑折町	<p>水田の転作物として小麦の生産を行ない、小麦・うどん等を町内の各種施設で活用したり、JAを通して販売</p> <p>関係団体が町産の間伐材を利用して木工品を製作して、町内のイベントで宣伝・販売</p> <p>町内産の桃を加工して、アイスクリーム・ピーチパイの材料に利用し販売</p>
国見町	<p>地元産転作小麦を学校給食へ供給</p> <ul style="list-style-type: none"> ・4月 玉うどん 43.0%使用 ・5月 食パン 30.0%使用 ・8月 乾麺(細) 3.3%使用見込 <p>なお、地元産転作小麦・大豆を学校給食で使用した場合の差額分を補填する事業を平成15年度より実施</p>
梁川町	<p>給食センターでの県内産及び地元産食材の使用</p> <ul style="list-style-type: none"> ・生鮮野菜(きゅうり・トマト・はくさい等) ・果物(りんご・ぶどう・もも) ・米 ・畜産物
保原町	<p>学校給食センターにおける食材購入</p> <p>町内の農家で組織している「まごころ会」から、地元で収穫した野菜を購入</p>
安達町	<p>県産材を活用した机イスの導入</p> <p>実績:17セット 事業費:411千円</p> <p>学校給食の食材</p> <p>実績:1,300食 事業費:2,018千円</p>
本宮町	<p>本宮方部学校給食センターの米飯給食において地元産の米を使用</p> <p>米の量(4～8月) 11,040kg</p> <p>JA本宮農産物加工センターにおける味噌の製造、販売に地元産の大豆、米を使用</p>

県北地方における地産地消の取組状況

市町村名	具体的な実施内容
白沢村	村内農産物の学校給食への供給 供給者:白沢村特産物直売所運営委員会 対 象:村内3小学校(約700食) 1中学校(約400食)
東和町	県産材を使用した机椅子の購入 実績:14セット 事業費:358千円 町内産食材を利用した食事提供 森林センター賄い材料 77千円

県中地方における地産地消の取組状況

市町村名	具体的な実施内容
郡山市	<p>保育所給食における郡山産米「あさか舞」の活用 学校給食における地元産米の利用 平成12年4月から市立小中学校給食に本市産米「あさか舞」を導入し、週3回の米飯給食に使用</p> <ul style="list-style-type: none"> ・品種 ひとめぼれ ・納入者 JA郡山市 ・年間使用量 約300t <p>サマーフェスタ in Koriyama 2004「ビール祭」のイベントにおいて、地元の特産品を取り入れた料理を出品</p> <ul style="list-style-type: none"> ・会期 平成16年7月28日(水)～8月1日(日) ・場所 開成山公園自由の広場 <p>郡山産木材「ときめ木」を利用した公共施設の整備</p> <ul style="list-style-type: none"> ・郡山産木材「ときめ木」を利用した木製遊具(すべり台)の設置 ・郡山産木材「ときめ木」を利用した木製ベンチの設置 <p>郡山産木材を活用した教卓の導入 135台(小学校100台、中学校35台)</p> <p>郡山産杉間伐材を天板に使用した児童・生徒用機の導入 16年度 小学校 10,500台 (事業費)116,865,000円</p> <p>市有建築物における県産資材等の利用促進</p> <ul style="list-style-type: none"> ・小学校建設において、地元の協力のもとに、湖南産の杉材をふんだんに使った校舎建設を推進 ・市有建築物の建設工事においては、地元資材の積極的な活用促進を工事特記仕様書に明記 ・地産木材を地元木材加工協同組合で製材加工されたものを使用 <p>【主な事業】</p> <ul style="list-style-type: none"> 湖南小学校建設事業(校舎・屋内運動場・プール等) 大規模改造事業(郡山第二中学校、小原田中学校、高瀬小学校) 大槻小学校屋内運動場改築工事 <p>農産物直売所連絡協議会の設立 (目的)郡山市内の農産物直売所(会)間の連携強化と消費者との交流の促進を図ることにより地産地消の推進に資する</p> <p>(事業) ・各種情報伝達 ・広報活動 ・消費者との交流イベント ・直売所(会)の経営の安定向上に係る研修会</p> <p>(設立) 平成16年7月12日 「郡山市農林水産物地産地消推進の取組方針」の策定と「郡山市農林水産物地産地消庁内推進会議」の設置(4/15) 農林水産物の地産地消を推進することを定めた取組方針を策定し、その推進母体として同日付けで部局横断的な「郡山市農林水産物地産地消庁内推進会議」を設置</p> <ul style="list-style-type: none"> ・第1回推進会議(4/15) ・第1回幹事会(5/31)

県中地方における地産地消の取組状況

市町村名	具体的な実施内容
須賀川市	<p>学校給食における地元農産物の活用</p> <ul style="list-style-type: none"> ・米は100%地元産を使用。また、農産物等は取引業者を通してできる限り地元産を購入 ・地元で収穫された農作物を取り入れ、学校ごとの形態にあった給食の献立を実施。購入先は、学区内の地元農家、取引業者(須賀川産を指定)、JA農産直売所を利用 <p>「すかがわ産地デー」の取組み</p> <p>市内小学校14校(分校含む)、中学校8校全校で、各学年で決定年間計画に基づき「すかがわ産地デー」を実施。教育委員会では毎月計画書、実施報告書の提出を受け、実施に向けての調整をしている</p> <p>地産地消の学校給食推進についての意見交換会</p> <p>昨年の意見交換会をもとに、アンケート等を作成し学校給食関係者と取引業者との意見交換会を実施(9月)</p> <p>「地元の農産物を料理に利用しよう」をテーマに、食生活改善推進員が、地域住民に対し伝達料理講習会を実施</p> <p>食生活改善推進員により「地元の新鮮な農産物の活用」を普及させるため、手作りの「健康カレンダー」に地場産品を食材とした手作り料理を写真掲載</p> <ul style="list-style-type: none"> ・作成部数 150部 <p>おはよう青空市場の開設(須賀川市青空市場運営協議会)</p> <p>農産物加工品・おれげの味の商品化</p>
長沼町	<p>遊休農地解消と転作用を活用してのそば、なたねの作付け及び地産地消の実践</p> <ul style="list-style-type: none"> ・そば JA直売所、直営藤沼温泉レストランで手打ちそばとして販売 ・なたね(アサカナタネ) 油として管内で販売 ・大豆(ふくいぶき)の作付 60a
鏡石町	<p>各種イベント時における地産地消の実践(青空市)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・あやめフェスティバル(6/20) ・かがみいし夏まつり(8/7) <p>定期的な朝市の開催</p> <ul style="list-style-type: none"> ・毎月最終日曜日に午前8時から1時間程度の朝市を開催(4/25・5/30・6/27・7/25・8/29)
岩瀬村	<p>イベントにおける地元産品の販売</p> <ul style="list-style-type: none"> ・いわせグリーンロードレース大会(6/6) (豆腐販売)1kg = 15丁 ・ホタル&水と緑のふるさと祭り(7/18) (みそ販売)1kg入り = 20ケ <p>年間予約者豆腐販売</p> <p>毎週金曜日製造販売 32丁</p> <p>JA直売所(はたけんぼ)</p> <p>毎週金曜日豆腐販売 30丁</p> <p>保健センター(温泉)</p> <p>毎週金曜日豆腐販売 25丁</p> <p>村産大豆で作った豆腐、みそ販売</p>

県中地方における地産地消の取組状況

市町村名	具体的な実施内容
天栄村	二岐山開き記念抽選会用 ・ヤーコンうどん等 事業費 30千円 学校給食での食材として利用 ・地元野菜、米等 事業費 365千円 天栄村人会での利用(会員へのお土産品) ・凍みもち、漬け物等 事業費 225千円 春の山菜祭り(来場者へ無料配布) ・ヤーコンうどん等 事業費 35千円 村観光PRイベントin羽鳥湖高原 ・ヤーコンうどん等 事業費 30千円
石川町	母衣旗まつりイベントにおけるふるさと特産品直売の実施 学校給食における地元農産物の活用 農産物直売所の開設
玉川村	特別養護老人ホームの食事で地元産の米を活用 こぶしの里センター(生産物直売所)での地元産品の販売 学校給食における地元農産物の活用 ・米飯給食(週3回)、地元の米を使用 ・生産物直売所の活用(野菜等) ・村特産物(さるなし)の活用 さるなしをゼリー等に加工
平田村	地元産の杉を活用した机・イスの導入 実績:160セット 事業費 3,800千円
浅川町	学校給食における地元農産物の活用 農産物直売所における販売 農業経営者クラブによるそば栽培とそば粉販売
古殿町	学校給食における地元農産物の活用 ・米:全量 あぶくま太陽米 ・野菜等:町内生産物(生産物直売所おふくろの駅経由) ミニトマト、ジャガイモ、ホウレンソウ、ワラビ ・「学校給食での地産地消取組み打合せ」開催(7/22) 出席者:(学校給食関係者)町教育長、町給食センター所長、町栄養士 (食材納入業者) 生産物直売所おふくろの駅駅長 (行政) 町産業振興課長 内容:今後の地産地消の取組み 石川郡管内で供給可能なものの積極的な利用を申し合わせた 例:前述のほかナス、インゲン、ネギ、トマト、キュウリ、シイタケ 地元生産材によるゴミステーションの建築(11棟・8,700千円) 9月発注 いきいき遊里工房(町立の老人生きがい対策施設)にて間伐材による プランター、ベンチ等の製作、販売

県中地方における地産地消の取組状況

市町村名	具体的な実施内容
三春町	<p>地区住民が取り組んでいる農産物等直売所：(下記はすべて有人)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・かご市(三春の里田園生活館内)：毎日/通年 ・さわ市(壺番館内)：毎日/通年 ・ぱりっとやおや市(岩江地区)：日曜日 ・大空会(貝山地区)：土曜日 ・百円ショップ(斎藤地区)：毎日(4月～12月まで) ・磐州市(旧町内)：月1回(4月～12月まで) <p>行政サイドの取組み</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学校(米飯)給食における町内産米の導入(平成12年度から全校で実施) ・農産物の品質保証制度の生産者及び消費者への浸透をめざす(「かご市」で実施中)。併せて町全体の制度として確立させるためのシステム化を検討 ・新規作物、特産品開発の検討 ・新規就農者の参入条件緩和の検討
小野町	<p>給食における農産物の活用</p> <ul style="list-style-type: none"> ・農協が主体となり、町内保育園に農産物を宅配(5～11月) ・直売所からの給食食材購入(昨年10月～) ・地元産の小麦粉を活用したパンの使用 ・今年度推進しているミネラル栽培の枝豆を使い、町内の小学校・保育園が同時に枝豆を給食あるいはおやつに取り入れる「枝豆の日」を設定 <p>直売所の開設</p> <ul style="list-style-type: none"> ・小野町朝市会(前身：小野町ファーマーズマーケット部会)による直売所 ・「エプロン館」の開設(7/1～・月～金)。 ・同部会による農協会館前での夕市開催(5～10月・日曜) ・小野町直売所協議会による常設直売所「おのいち」(土・日・祝) <p>ミネラル野菜栽培の推進</p> <ul style="list-style-type: none"> ・家畜排泄物等を利用した健康な土からとれる安全でおいしいミネラルの豊富な野菜の栽培を推進し、モデルほ場で生産された農産物の試食会を開催。また食生活改善推進委員会で開催するおやつ教室への食材提供実施 ・広報紙への掲載によるミネラル野菜情報周知
滝根町	<p>町観光施設(あぶくま洞)において地元農産物の直売</p> <p>町交流宿泊施設(針湯荘、ふれあい館)において地元農産物の直売</p> <p>学校給食における地元農産物の活用</p> <ul style="list-style-type: none"> ・米飯に滝根産米使用、その他農産物を積極的に使用 <p>地域における農産物直売所の推進</p> <ul style="list-style-type: none"> ・町内3カ所(2店舗)開設済み 1カ所：毎週土曜日町内の広場にて開設 ・かあちゃん朝市(JAたむら女性部会：7月～11月の第2・4日曜日) 「星の村文化まつり」「あぶくま洞夏まつり」等イベントにおける地産地消 ・農産物品評会 ・畜産祭 <p>料理コンテストの開催</p> <ul style="list-style-type: none"> ・田村郡内で生産されている代表的な野菜を用いた料理コンテストを実施(地域づくりサポート事業)

県中地方における地産地消の取組状況

市町村名	具体的な実施内容												
大越町	<p>学校給食における地元農産物の積極的な活用 農産物直売所のPR活動</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ふるさと館開館5周年記念感謝祭(7/4) ・お盆市(8/12) 												
都路村	<p>イベントにおける地産地消の実践</p> <ul style="list-style-type: none"> ・都路灯まつり(8/7) <p>村産木材を利用した体験コーナーや村産牛肉の販売を実施</p>												
常葉町	<p>農産物直売所の開設</p> <ul style="list-style-type: none"> ・JA女性部が菜徳市場(なっとくいちば)と称し、会員11名により、5月より第2第4土曜日、午前9時から11時までJAアグリ敷地内で農産物の販売を実施 <p>学校給食における地元農産物の活用</p> <ul style="list-style-type: none"> ・平成15年度より、ピーマン、ゴボウ、パレイシヨ、ネギ、ヤーコン等を使用 <table border="1"> <thead> <tr> <th>産品販売</th> <th>販売金額</th> <th>イベント出店</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>・しそアイスクリーム</td> <td>44万円</td> <td>9回</td> </tr> <tr> <td>・しそジュース「あぶくまの紫源郷」</td> <td>180万円</td> <td>11回</td> </tr> <tr> <td>・しそうどん</td> <td>5万円</td> <td>11回</td> </tr> </tbody> </table>	産品販売	販売金額	イベント出店	・しそアイスクリーム	44万円	9回	・しそジュース「あぶくまの紫源郷」	180万円	11回	・しそうどん	5万円	11回
産品販売	販売金額	イベント出店											
・しそアイスクリーム	44万円	9回											
・しそジュース「あぶくまの紫源郷」	180万円	11回											
・しそうどん	5万円	11回											
船引町	<p>学校給食における地元米の活用(12校 月8日～12日)</p> <p>学校給食における船引特産エゴマの活用(10校 3.2kg)</p> <p>地元農林産物の販売</p> <ul style="list-style-type: none"> ・旬菜かたそね直売所(毎週金・土・日曜日) ・町商工会のふねひき夕市(6月～10月まで毎月1回5回開催) ・JAたむら女性部のふれあい直売所(毎週火・水曜日) <p>イベントにおける地産地消の実践</p> <ul style="list-style-type: none"> ・植樹祭の際に、船引町産おにぎりを参加者全員に配布(6/13)200パック ・ふくしま遊学2004の際に、船引町産食材を使用した昼食を提供 地粉(きぬあづま)を使用した手打ちうどん体験 ふねひき産エゴマ及びエゴマ油を使用した昼食 <p>田村産木材を活用した町立小学校の建設</p> <ul style="list-style-type: none"> ・校舎新築 1校(芦沢小学校) <p>生涯学習スクールにおける船引町産食材の使用</p> <ul style="list-style-type: none"> ・エゴマ教室(全5回) 												

県南地方における地産地消の取組状況

市町村名	具体的な実施内容
白河市	農産物直売所の広報 学校給食食材の地元産利用の拡大
西郷村	上野原公園整備での白河石の使用 学校給食での地場産食材の使用
表郷村	県産材を活用した机、椅子の導入 実績:90セット 事業費:2,173千円
東村	直売所での地元農産物等の販売
中島村	直売所での地元農産物等の販売
矢吹町	中学校学校給食での地元農産物の使用 実績:かぼちゃ他15品目、1,375kg 事業費:267,944円
大信村	保育所及び学校給食への地元食材供給 実績:野菜14品目、700kg 事業費:約300千円
棚倉町	直売所での地元農産物の販売
矢祭町	県産材を使った看板の設置 実績:道路工事看板 1箇所 事業費:15千円 学校給食での地元産食材の使用 実績:米(3,171kg)他8品目 事業費:1,629千円
埴町	直売所での地元農産物の販売

会津地方における地産地消の取組状況

市町村名	具体的な実施内容
会津若松市	<p>推進協議会、分科会の開催</p> <ul style="list-style-type: none"> ・各分科会(流通加工部門、集団給食部門、旅館・飲食部門)開催(8/3～8/5) ・推進協議会開催(8/9) <p>会津若松市地産地消ホームページの作成 内容:地産地消の意味や取組、会津の伝統野菜・旬の野菜を使った簡単レシピ、スローフード・協力農業者・協力店・直売所の照会、各種募集等)</p> <p>地産地消推進パンフレットの作成</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地産地消だよりを作成し、9/1の市政だよりで全戸配付 その他施設に設置 <p>地産地消協力農業者制度の実施</p> <p>83名登録</p> <p>地産地消協力店登録制度の実施</p> <p>63業者登録。9/1より地産地消協力店を巡るスタンプラリーを開催</p> <p>学校給食への地元食材利用拡大</p>
喜多方市	<p>学校給食地元食材使用</p> <ul style="list-style-type: none"> ・(財)福島県学校給食会を通じ、地元産米を学校給食に使用 ・JA及び市内業者より旬の野菜の提供を受けている ・校内放送により 給食に出された食材の産地を紹介し、地元で取れた本物を味わうことの意識を植え付けている <p>学校給食会津漆器使用</p> <p>平成11年より天然木使用の木地に喜多方産の漆を使用した漆器と箸を使用し、本物に触れることで、児童一人一人の感性を豊かにし、物を大切にすることを養うことを目指している</p> <p>小麦の試験栽培とラーメン試作</p> <p>雄国地区において試験栽培を行い、地元産小麦を使用した喜多方ラーメンの開発、試作を実施</p> <p>大豆栽培</p> <p>地元産大豆を使用した豆腐の商品化を目指し、大豆の試験栽培を実施</p> <p>豆腐の試作も実施</p>
北会津村	<p>学校給食への農産物供給</p> <p>「ホタルの里農産物供給グループ」という組織を作り、給食センターへ地元の野菜等を供給</p> <p>農産物加工施設での製造販売</p> <p>企業組合の加工施設で、村内で生産されたリンゴ、米、大豆を使用してリンゴジュース、味噌を製造販売</p>
熱塩加納村	<p>農産物直売所の設置、農産物直売の実施</p> <p>学校給食への農産物の提供</p> <ul style="list-style-type: none"> ・まごころ野菜供給者会による、無農薬・減農薬栽培の野菜を供給 ・減農薬・減化学肥料栽培の米を供給(地産地消による米飯完全給食)
北塩原村	<p>農産物直売</p> <p>裏磐梯の宿泊施設において、地元産の新鮮野菜を利用しやすくするため、直売施設での販売のみならず、出張販売を実施</p>

会津地方における地産地消の取組状況

市町村名	具体的な実施内容
塩川町	<p>小中学校において地元野菜等の積極的活用</p> <p>町内認定農業者4名が町内4小中学校と契約し、直接納入</p> <p>各直売会</p> <p>町主催のイベント等(花しょうぶまつり)や認定農業者協議会主催の直売会を実施</p> <p>スーパーでの委託販売</p>
山都町	<p>学校給食</p> <ul style="list-style-type: none"> ・山都産米コシヒカリをJA会津いいでから購入し学校給食に使用 ・野菜出荷希望者を募集し、生産者団体を作り納入品目や納入方法について検討 ・平成16年度納入品目(4～8月) アスパラガス 玉ねぎ 大豆 赤米 生なめこ 味噌 米(コシヒカリ)
西会津町	<p>にしあいづ健康ミネラル野菜</p> <p>「にしあいづ健康ミネラル野菜普及会」が中心となり、ミネラル野菜を町内の小中学校や社会福祉施設、振興公社が運営するレストランへ米や野菜などの食材を提供</p>
高郷村	<p>そば</p> <p>「ふれあいランド高郷」にて「雷神そば」として常時販売</p> <p>大豆</p> <p>東芳賀集落営農組合にて、冬期間「小鈴納豆」や「きな粉」に加工し販売</p> <p>野菜</p> <p>JA会津いいで女性部、「ふれあいランド高郷」玄関前にて販売</p> <p>米</p> <p>酒・みそに加工し販売（「会津錦」・「手造りみそ」など）</p>
猪苗代町	<p>会津地鶏の活用</p> <ul style="list-style-type: none"> ・(財)猪苗代町振興公社が主体となり、会津地鶏の飼育によりその肉等を「祝言そば」の出汁や「親子丼」で活用。地鶏ラーメン、オムライスの開発も実施 <p>そば焼酎開発</p> <ul style="list-style-type: none"> ・猪苗代町認定農業者会により、本町の生産のそば及びうるち米ひとめぼれを原料として、「そば焼酎」の開発を昨年実施。本年度も新そば、新米により生産実施 <p>地元産米の米飯給食</p> <ul style="list-style-type: none"> ・本年度から(財)猪苗代町振興公社が小中学校の給食業務を委託しており、米飯については地元産のコメを使用
会津坂下町	<p>学校給食への農産物提供</p> <p>米、アスパラ、キュウリ等の食材を学校給食に使用</p>
湯川村	<p>直売所</p> <p>毎週日曜日、9時～正午まで、朝取り野菜等農産物の直売を「湯川村はおいしいものづくりの会」が実施</p> <p>学校給食の地元産米使用</p> <p>小中学校の学校給食において、地元産コシヒカリを使用</p>

会津地方における地産地消の取組状況

市町村名	具体的な実施内容
柳津町	柳津町農産物即売会 会員制の販売組織を作り、観光案内所に隣接した場所に販売所を設置し、観光客、地元旅館等も対象として旬の野菜、山菜、おこわなど各会員が持ち寄り販売 学校給食 できるだけ地元産の食材を使用。現在は1件の農家と契約を結び、地元野菜の買取りを実施
河東町	学校給食における地場産野菜供給 アスパラ、きゅうり、なす等学校給食に使用 野菜直売所開設 地元農家による野菜の直売
会津高田町	学校給食 学校給食用食材に使用 (米:すべて地元産、野菜、果物等:一部地元産)
会津本郷町	炎の郷・向羽黒山城跡ふれあい茶会で伝統工芸品を使用 会津本郷焼きをはじめ、会津漆器、三島桐、昭和のからむし織等の伝統工芸品を茶道具として使用 会津そば逸品 つめっこやき 会津の地野菜にこだわった具財をそばの皮でおいしく包み込んだそば焼きもちの販売
新鶴村	環境に配慮した地産地消事業 会津夢農場ネットワークが主体となり、村内の公共施設から出される生ゴミを土壌改良材に再生し、会員の農地に還元して付加価値の高い農産物を生産し、地元直所等で販売実施
三島町	会津地鶏 ・会津地鶏普及促進のため、地元旅館飲食店において消費の推進を実施 ・会津地鶏生産農家増のために雛を提供 会津桐 役場内で桐の課名プレート、ネームプレート、名刺、コースター等を使用 地元産杉 小学校の机・イスに地元産杉を使用
金山町	町で運営する施設及び学校給食に地元の米や野菜を使用 町内産の野菜の消費拡大を図るため、無人販売施設等で地元で採れた野菜、山菜キノコ等を販売 町内で採れた野菜、きのこ類を漬物等に加工し、町内外に供給
昭和村	地元産米の使用 小中学校の米飯給食 玄米 2,131kg(品種:ふくみらい) / 年間 特別養護老人ホーム、デイサービスの米飯 玄米 2,280kg(品種:ふくみらい) / 年間

南会津地方における地産地消の取組状況

市町村名	具体的な実施内容
田島町	<p>農林産物</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学校給食での推進 小学校の給食で、地元産の米や野菜(アスパラガス)、りんごなどを活用 ・農産物の直売による推進 農産物の地元消費と農家収入の向上を目的に、既に整備されている直売所や商店街空き店舗を利用した直売が生産者グループ等で行われており、町としても直売にかかる情報を提供するなどの支援を実施 ・「道の駅たじま」における農林産物の直売 「道の駅たじま」で地元で生産される野菜、果物、きのこ、山菜などの農林産物の直売を実施 <p>地場産材</p> <ul style="list-style-type: none"> ・公共施設への地場産材活用 町が発注整備している公共施設の整備事業において、地元の杉や松などの地場産材を利用 PR・啓蒙活動の一環として地場産材を使用した町有建築物に対して、ブランド名を明記した木製表示板を掲示 田島町地域経済活性化対策として、住宅建築の際に地元工務店及び田島産材又は県産材を利用した場合、地元商店街協同組合発行の商品券を支給 ・推進組織における検討作業への参画 田島町地域住宅計画(ホープ計画)推進事業において、民間団体等が中心になって組織されている「田島町地場産材活用ネットワーク検討会議」に、関係職員が参画し、地場産材の活用方策の検討を推進
館岩村	<p>「日本大地の会」と協力し、アワ等の栽培面積拡大と併せて、有機栽培を推進(五穀の里倶楽部)</p>
檜枝岐村	<p>舞たけ(生産:檜枝岐村温泉・特産事業所 特産品センター)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・生舞たけ:村内民宿・旅館中心に消費 ・乾燥舞たけ:村内売店等で消費 <p>イワナ(生産:檜枝岐村温泉・特産事業所 養漁場)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・生魚:村内民宿・旅館中心に消費(塩焼き用等) ・加工品:村内民宿・旅館中心に消費(刺身、焼き魚、三枚おろし) ・甘露煮:村内民宿・旅館中心に消費、お土産品として生産加工、村内売店等で消費 <p>野菜等農産物</p> <p>山人塾、青年団といった外郭団体が村内の休耕地を借り上げて農作業を行い、収穫したジャガイモと長ネギを真夏の雪祭りの飲食コーナー食材として使用し販売</p>
伊南村	<p>JAと連携して学校給食の食材に地元農産品を使用</p>
南郷村	<p>地元小学校等の学校給食で地元産米、野菜等を提供</p>
只見町	<p>会津ただみ振興公社による会津地鶏の販売 季の郷ゆらり、只見特産による地元農産物の買取活動 (買取後、自社内で加工・調理して提供、販売) 学校給食センターによる食材買入(米、野菜等)</p>

相双地方における地産地消の取組状況

市町村名	具体的な実施内容
原町市	<p>農産物直売所の開設</p> <ul style="list-style-type: none"> ・市内20カ所(JA1カ所、個人19カ所) <p>学校給食における地元農産物の活用(小・中学校)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・米飯給食を週3回実施しており、米については、学校給食会と契約し、JA そうまから原町産ひとめぼれを購入 ・農産物は、市内の契約業者を通じて地元産を仕入れるよう依頼 ・牛乳は、県牛乳事業協同組合と契約し、地元業者製造の牛乳を購入 ・パンや麺は、学校給食会と契約し、地元製造業者の製品を購入 <p>イベントにおける地産地消のPR</p> <ul style="list-style-type: none"> ・あやめまつりハートランドフェスティバル(6/19,20)での多珂うどん(地元産小麦100%使用)の試食・販売等
相馬市	<p>農産物直売所</p> <ul style="list-style-type: none"> ・峠の野菜(野菜類) ・高原野菜協同販売(野菜類) ・山上野菜直売所運営会(野菜類) ・どでかぼちゃ(野菜類) ・おひさまや(農産加工品) ・和田観光莓組合(イチゴ・ジャム等) <p>朝市等の開催</p> <ul style="list-style-type: none"> ・JA そうま女性部相馬方部ふれあい市部会(野菜等・毎週日曜日 13時～17時) ・相馬市青空市場出店者会(野菜等・毎週日曜日 6時～7時) ・玉野高原野菜大町直売所(野菜等・毎週金曜日 13時30分～17時) <p>県産材を活用した椅子の導入</p> <ul style="list-style-type: none"> ・木とふれあう学舎づくり推進事業(みどり幼稚園 木製椅子 61脚) <p>イベント等における地産地消の実施、PR</p> <ul style="list-style-type: none"> ・道の駅そうま体験実習館において「ホッキ貝のむき方」、及び「ホッキご飯の試食サービス」を実施(7/23) ・道の駅そうま体験実習館において県で認定された「おらが浜自慢料理」のうち「アサリご飯」と「青海苔のてんぷら」をメニューとした料理教室を開催(8/24)
広野町	<p>イベント等における地産地消の実施</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「ニツ沼ふれあいフェスタ」での地元農産物の販売(5/1、ニツ沼総合公園、(株)広野町振興公社主催) 地元産そば粉による手打ちそば、地元産米による焼きおにぎり、地元朝取り野菜 ・「サマーフェスティバル2004」での地元農産物等の販売(8/15、ニツ沼総合公園、実行委員会主催) 地元産小麦粉によるうどんの実食、販売、地元産大豆による豆腐販売、地元朝取り野菜 <p>直売所における地産地消の実践</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ふるさと広野館内直売所(野菜、花卉、農産加工品、民芸品) ・ふるさと広野館の朝市(毎週土、日曜日) <p>農協婦人部による朝市の開催</p> <ul style="list-style-type: none"> ・JA 広野支所前で毎週水曜日 <p>学校給食における地元農産物の活用</p> <ul style="list-style-type: none"> ・米(週4回)、玉葱、じゃがいも、干し椎茸(小・中学校)

相双地方における地産地消の取組状況

市町村名	具体的な実施内容
<p>檜葉町</p>	<p>イベント等における地産地消の実施 ・スプリングフェスティバル2004in天神で地元産米のPR(試食30kg) 農産物直売所(生鮮野菜、山菜、花卉、加工品等) ・設置場所:檜葉町大字山田岡字伯母袋地内 ・名称:sun-サン夢ひろば実行委員会 青空市場の開催(生鮮野菜、花卉等) ・期間:7/21~12/26まで 第2・第4日曜日 午後1~4時まで ならは特産品加工企業組合(漬物、もち、加工品、サケ等の販売)</p>
<p>富岡町</p>	<p>イベント等における地産地消の実施、PR ・夜の森さくらまつりでの地元農産物及び加工品の販売 地元産米、地元産野菜等 (4/10,11 夜の森公園 主催:富岡町観光協会) ふたばカップジュニアサッカー大会での地元農産物及び加工品の販売 (7/17~19 「ヴィレッジ」主催:双葉地方広域市町村圏組合) 農産直売所における地産地消の実践(JA南双葉、ひまわり会) 学校給食における地元農産物の活用 ・米(週3回、小・中学校4校) 福島空港を利用したニュージーランド・オークランド市との交流 (4/21~26)</p>
<p>川内村</p>	<p>イベント等における地産地消の実施・PR ・ゴールデンウィーク特設そばまつり (5/4,5)いわなの郷 ・高塚高原ドウダンまつり 山菜の販売(ワラビ、フキ、ウド等) 特産加工品販売(梅の加工品、しその実加工味噌、凍み餅、漬物) 地元生産のそばの販売 ・そば打ち体験(通年)いわなの郷「体験交流館」 地元生産の玄そばを利用し、そば打ち体験を実施 直売所での販売(通年)かわうちの湯「まあらっしえ」 ・地元野菜、花卉、農産加工品、民芸品等 無人直売所5ヶ所 学校給食による地産地消活動 ・保育所、小学校、中学校の給食で地元農産物活用 (米は週4日、野菜等) 森林資源の活用 ・杉、松等の間伐材の活用 村内公共施設への焼杭、観光案内版への利用 「双葉地方森林組合川内事業所」 飲食店での活動(通年)いわなの郷「幻魚亭」、「高山クラブ」 ・地元生産のそば料理を販売 観光施設での販路拡大(通年)いわなの郷「幻魚亭」、「高山クラブ」 ・地元生産のそば粉や水産加工品等を販売</p>

相双地方における地産地消の取組状況

市町村名	具体的な実施内容
大熊町	<p>イベント等における地産地消の実施、PR</p> <ul style="list-style-type: none"> ・7/17,18 Jヴィレッジ雨天練習場内 ふたばカップジュニアサッカーフェスティバルでの地元農産物の販売 しいたけみそ、小夜姫のしそ、キウイワイン、田舎味噌、柏もち、大福もち <p>農産物直売所の開設</p> <ul style="list-style-type: none"> ・町内1ヶ所 朝市などを実施 <p>都市部と交流</p> <ul style="list-style-type: none"> ・都市部と電源立地地域「大熊町特産品の梨」通じて交流を実施 <p>学校給食における地元農産物の活用(4月～7月)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・コシヒカリ 小学校 2,130kg 中学校 106kg
双葉町	<p>イベント等における地産地消の実施</p> <ul style="list-style-type: none"> ・種苗市での地元農産物の販売 5/15,16 JAふたば営農センター 双葉町種苗市実行委員会主催 ・サマーチャレンジ・イン双葉での地元農産物の販売 8/7 双葉海浜公園 双葉町商工会青年部主催 ・第1回ふれあい広場(商と農の市) 8/21 双葉駅前駐車場 双葉町商工会主催 <p>直売所における地産地消の実践</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ふれあいふたば産地直売所 (野菜、花卉、農産加工品など)
浪江町	<p>直売所における地産地消の実施</p> <ul style="list-style-type: none"> ・町内6直売所(野菜・花卉・農産加工品等) <p>学校給食における地元農産物の活用</p> <ul style="list-style-type: none"> ・トマト・たまねぎ・じゃがいも・鶏卵等の活用 (小学校6校、中学校3校) ・請戸漁港水揚の魚介類等の活用 (小学校2校、中学校1校) <p>イベント等における地産地消の実施</p> <ul style="list-style-type: none"> ・5月のイベント 大せとまつり、緑のフェスティバル時に野菜・花卉・農産加工品等の販売
葛尾村	<p>農産物直売所の開設</p> <ul style="list-style-type: none"> ・村内1ヶ所(つくしグループによる毎週水・日曜日) <p>地元農産物の直売</p> <ul style="list-style-type: none"> ・宿泊交流施設「せせらぎ荘」 大尽うどん、じゅうねんアイス他
新地町	<p>イベント等における地産地消の実施、PR</p> <ul style="list-style-type: none"> ・種苗市での地元農産物の販売(5/15,16 主催:JA、商工会) 米、野菜、魚、花、農産加工品 ・お盆市での地元農産物の販売(8/12 主催:JA、商工会) ・新地町都市農村交流推進協議会 (体験学習時に地場産品の活用) <p>直売所における地産地消の実践</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地場産市場(野菜、米、魚、花、農産加工品) <p>学校における地元農産物の活用</p> <ul style="list-style-type: none"> ・給食 米(週4回 小・中学校4校) いも、豆、緑黄色野菜、魚(保育所4ヶ所、小・中学校4校) ・放課後 米(おにぎり週4回中学校)火曜～金曜 5月まで

相双地方における地産地消の取組状況

市町村名	具体的な実施内容
鹿島町	<p>かしま町観光物産館「四季彩」の取組み</p> <ul style="list-style-type: none"> ・第12回万葉の里かしま春まつり出店(4/17,18) 県道浪江・鹿島線(歩行者天国) 第12回万葉の里かしま春まつり実行委員会主催 野菜、加工品、民芸品での出店 ・小高町ひなたぼっこ出店(5/29) 野菜、加工品、民芸品での出店 ・8周年記念売り出し(7/10,11) 古代米もちつき大会、ウイナー・ソーセージ焼き、キノコ焼き、 焼きスルメ、そば等
小高町	<p>イベント等における地産地消の実施、PR</p> <ul style="list-style-type: none"> ・浮舟まつりでの地元農産物の販売(販売:地元農家・地元商業者) (4/18、妙見通り、主催:小高町商工会) 「野菜」販売は、日向ぼっこ(南鳩原) ・懸の森山開きでの地元農産物の販売 (4/29、鳩原小校庭、主催:小高町観光協会) 「野菜、たけのこ、きのこ、味噌、パン、日本酒、乳製品」 <p>直売所における地産地消の実践</p> <ul style="list-style-type: none"> ・日向ぼっこ(南鳩原) 米、野菜、味噌 ・ほほえみ直売所(下耳谷) 米、野菜、味噌 ・愛和産業(大田和) すっぽん ・梨直売 梨農家4軒 <p>空店舗を利用した商工会女性部の取り組み</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ひまわり(上町一丁目地内) 開催日:毎月末の金・土・日の3日間 衣料品、雑貨、装飾品、履物、手作り品、野菜、ギフト品等 <p>地元農家による夕市の開催(電源地域女性懇談会)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・毎週金曜日夕方、小高町役場駐車場・保健福祉センター等 野菜 ・毎月1回程度、文化会館の催しにあわせての野菜販売 <p>学校給食における地元農産物の活用</p> <ul style="list-style-type: none"> 米(週3回)、大根、ねぎ等 (小・中学校 計4校)
飯舘村	<p>イベント等における地産地消の実施、PR</p> <ul style="list-style-type: none"> ・第22回いいたて夏まつり「までいライフinあいの沢」での地元農産物の 販売(7/31、村民の森あいの沢、主催:いいたて村づくり推進協議会) 地元産牛肉 600kg 地元産野菜(とうもろこし、きゅうり、いんげん、かぼちゃ、トマト、 ほうれんそう、みょうが、ねぎ、なす等) 地元特産品(凍みもち、各種漬け物、しいたけ等) 地元花卉(リンドウ、トルコキキョウ等) <p>直売所まつりの実施(7/17,18)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・村内5ヶ所の直売所及び福島市南向台へのばんかた農市で実施 ・各直売所毎に先着へプレゼント(野菜、麦茶、そうめん等)を実施 <p>学校給食における地産地消の取組</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地元産米の使用 週5回のうち4回、飯舘村内の米飯給食を実施 ・地元野菜の使用 野菜全体購入費のうち約1/3を地元野菜購入

いわき地方における地産地消の取組状況

市町村名	具体的な実施内容
いわき市	<p>イベント「”わくわく”いわき2004」開催(10/2,3) 農産物コーナーなどを設置</p> <p>第55回いわき産業祭開催(10/9,10) テーマ:発信!”いわきスタイル”ビジネス 「戦略産業育成支援」という施策のもとに進めている地域の特色や資源を生かした新たな産業育成への取組みを紹介 農林水産物や工業製品、観光土産品など市内の産業・産品を紹介(うつくしま、ふくしま。ものづくりフェスタ2004合同開催) 冊子「いわき市農産物直売所マップ」を5月より市民に無料で配布(市と市農業振興協議会)</p> <p>副読本「いわき市の農業」作成 「食農教育」の充実を図り、いわき市の農業を身近なものと認識してもらうことを目的に、市内の小学5年生を対象に各小学校に5,000部配布</p> <p>第19回いわき「産直」夕市まつり開催(8/11) 遠野オートキャンプ場において各種事業開催 ・遠野匠の技体験 ・遠野里山生活体験 ・手漉き和紙体験</p> <p>「いわきうまいものフェスティバル2004」のレポートブックを製作 2月に行われた同フェスティバルの内容と、フェスティバル内の地場産品料理コンテストに出品された14のアイデア鍋料理のレシピを中心に紹介 関係機関のほか一般市民を対象に無料で配布(5月:市、市観光物産協会)</p>